

五條市制 60 周年記念事業

井上内親王生誕1300年記念



新作能「齋王」

雅楽演奏と演舞「天平行列」

2017年10月8日(日) 於 御霊神社本宮

新作能「齋王」制作 中所 宜夫 赤根染め幕制作 染司 よしおか 吉岡 幸雄 能舞台協力 山本 陽一 齋王餅製作 (株)石井物産

協力 御霊神社本宮 御霊神社氏子会 薬師寺 天理大学 Andrew James Nash-Webber 中西秀幸 榎野久春 五條市立老人憩の家 株式会社ハクナバラ

後援 五條市 五條市教育委員会

企画監修 杉本 洋

主催 Office Yoh

共催 特定非営利活動法人 大和社中



11:00 ~ 12:00

雅楽演奏と演舞

「天平行列」

吉岡幸雄先生が作成された復元天平装束(1300年前の当時の装束)を拝借し、天理大学雅楽部学生による雅楽演奏と演舞を行います。



御霊信仰とは

御霊神社の御祭神である井上内親王は、聖武天皇の第1皇女で、光仁天皇の皇后となったものの皇位継承争いに巻き込まれ、皇太子の他戸親王とともに幽閉されて亡くなっています。死後に都で天変地異や疫病流行などが起こり、祟りと恐れられました。そのため霊を鎮めるために御霊神社が建立され、神として祀つたのが御霊神社の始まりとされています。

天平装束と赤根染

奈良薬師寺から玄装三蔵縁起式で使われた復元天平装束を拝借し、天理大学雅楽部学生による雅楽演奏と演舞をします。また、万葉集にも詠まれた三〇〇年前の染色技術で幕を赤根に染め、公演の際に境内及び能舞台を装飾します。染織史家の吉岡幸雄先生のご協力により実現いたしました。「赤根染」の原料は五條市に多く自生し、歌舞伎や文楽の「艶姿女衣・赤根屋平七の段」で有名な染物屋も実在していました。

新作能「齋王」とは

能は神事と関わりの深い伝統芸能であり、古くより鎮魂の機能を担ってきました。この度井上内親王生誕三〇〇年を記念して、新作能「齋王」を重要無形文化財総合指定保持者である中所宜夫師に制作して頂きました。

14:00 ~ 16:00

新作能「齋王」公演

シテ(前 五條ノ女(母)、後 井上内親王) 中所 宜夫
前ツレ(五條ノ男(子)) 河村 浩太郎
ツレ(旅ノ女) 河村 和晃 ツレ(女ノ供) 河村 和貴
間狂言(御霊神社ノ社人) 小笠原 匡
笛 赤井 啓三 小鼓 成田 達志
大鼓 守屋 由訓 太鼓 中田 弘美 地頭 河村 晴久

梅は御祭神の縁の花かと尋ねると母は、そつではないけれど昔は若い命を守つてやれなかつたけれど、この梅は朽ちようとする今もお見事に赤い花を咲かせて、次世代へ命を繋ぐつとして、この大変な時代に子を産もうとするあなたを今度は確かに守ります、と言葉を残し、夕日が赤根に染まる中姿を消します。

門前の者が現れて、旅の女に声をかけ、井上内親王について丁寧に詳しく語ります。そして妊娠の身を気遣つて養所を設えてくれます。その夜、旅の女の夢に井上内親王が現れ、何故怨霊となったのか、それが今は守り神となっている子細を語り舞を舞つて祝福を与えます。

あらずし
四十路半ばに子を授かり、環境への不安から西に住処を求める女性(ツレ)が、供の男(ツキキまたはツレ)と登場し、高齢出産の神様がいてと聞いて御霊神社にやってきました。神社の門前で赤い見事な花を咲かせる老い梅に見惚れていると、夫婦とも見える母(シテ)子(ツレ)が登場し、件の梅を見にやってきました。二組の男女が言葉を交し、やがて御祭神のことが語られます。



雅楽演奏と演舞「天平行列」

新作能「齋王」公演

チケット代金：一万円・記念和菓子「齋王餅」付

お問い合わせ：秋祭り実行委員会 事務局
TEL 0747-23-0178

会場：御霊神社 本宮
〒637-0035 奈良県五條市霊安寺町 2206